

2019年 3月6日

2018年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究 () ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	長崎 巖	
研究課題名	近世戦衣における木綿及び皮革の使用実態に関する研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
長崎 巖	家政学部・教授	研究代表者
研究期間	2018年4月1日 ～ 2019年3月31日	

研究実績の概要 (1)

下記において研究成果を発表した。

- (1) 長崎巖, 能楽学会第17回大会講演「描かれた能狂言装束」(2018年5月19日)
- (2) 長崎巖, 共立女子大学博物館講演「夏のきものー日本女性はきもので夏をどう楽しんだかー」(2018年6月23日)
- (3) 長崎巖, 島根県立石見美術館講演「ゆかたー夏の楽しみ・くつろぎの美ー」(2018年7月14日)
- (4) 長崎巖, 渋谷区松涛美術館講演「大名家と能装束ー文化史的視点からー」(2018年10月14日)
- (5) 長崎巖, 大阪市中央公会堂講演「『高島屋史料館』所蔵品でたどるきもの意匠の流れ」(2019年2月23日)
- (6) 長崎巖, 深井晃子, 京都染織文化協会講演「きもの談義: 日本のきもの、西洋の KIMONO」(2019年3月19日)

研究実績の概要（2）

下記において現地調査を行った。

- (1) 東京都江戸東京博物館において木綿資料を中心とする近世染織品の調査を行った（2018年4月17日）。
- (2) 大分県宇佐新宮において近世染織品の調査を行った（2018年5月6～8日，7月30～31日）。
- (3) 福岡県吉富町八幡古表神社および熊本市立熊本博物館にて近世染織品の調査を行った（2018年10月17～19日）。
- (4) 京都府京都市千總ギャラリー，中村ちんぎれ店において近世染織品の調査を行った（2019年1月13～14日）

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

【著作物】

- (1) 長崎巖，共著『ゆかた浴衣 YUKATA』，イデッフ，2018年7月
- (2) 長崎巖，共著『林原美術館所蔵 大家の能装束と能面』，渋谷区立松涛美術館，2018年10月
- (3) 長崎巖，共著「宇佐神宮所蔵・黄地桐紋散模様綾小袖に関する調査報告」，共立女子大学家政学部紀要，65，2019年1月
- (4) 長崎巖，単著「伝豊臣秀頼所用・紅練緯地草花霞模様肩裾四つ身残欠」に関する復元的考察，共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要，25，2019年2月
- (5) 長崎巖，単著「庶民の染織—本学博物館所蔵品を通して見る、その特徴と美—」共立女子大学博物館年報／紀要，2，2019年3月刊行予定
- (6) 長崎巖，共著「八幡古表神社 乾衣祭習俗調査報告書」，吉富町教育委員会，2019年3月刊行予定
- (7) 長崎巖，共著『The KIMONO Styled & Restyled』図録，京都織物卸商業組合，2019年3月刊行予定